

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

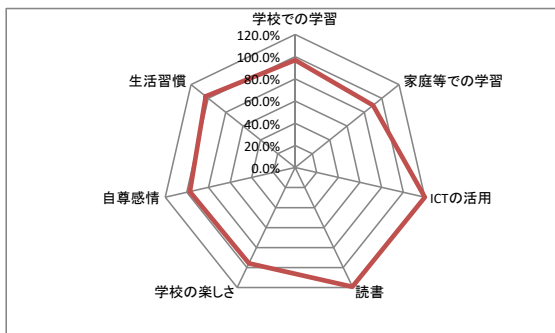
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」については、全国平均を大きく上回っている。一方で、「情報の扱い」に関する事項が県平均を若干下回っている。全体的には概ね全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」に関して、「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現する工夫」や「論理の展開などに注意して聞く」の問題に対しては、全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	「情報の扱い方に関する事項」では、「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」ことを苦手とする生徒がいる。また、「表現の技法について理解する」問題については、全国平均よりかなり下回っているため、今後指導していきたい。	
数学	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を証明することや、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて、説明するに関する問題は全国平均を上回っている。一方で、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を証明することが得意な生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの証明」や「コマ回し大会使用するコマをヒストグラムの特徴を本に選び、選んだ理由を説明する」の問題は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」や「2つの角度の和が30°になる理由を示し、1つの角度の大きさがいつでも60°になることの証明を完成する」の問題は全国平均を下回っている。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域や記述に関する正答率は高い。一方で、「粒子」を柱とする領域の問題が全国平均を下回っている。また知識・技能をに関する問題を苦手とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	節足動物の外部形態の観察結果と、調べた内容を生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかの問題は、大きく全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する問題は、全国平均を下回っている。今後、多くの情報から必要なものを選択する力を身につける必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・1日当たりのテレビゲームの1時間以下の利用率、「読書は好きですか」の割合は全国平均を上回っている。「子ども読書の取組」「朝読書の取組」等を通して、読書に対する関心が高まっている。 ・将来の夢や希望をもっている生徒の割合が、全国平均を上回っている。「特別活動・総合的な学習の時間」の系統的な取組を通して、それぞれの夢を実現させるために、具体的な目標を設定して、行動に結び付けさせる指導がある程度できていると思われる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「考えを深める話し合う活動と書く活動」を積極的に取り入れ、生徒が自分の意見を発表することができ、さらにICT機器を有効的に活用した「授業づくり」、またそれを確かめ合うことができる「学級・学年づくり」に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学習面では、「篠中ノート」やタブレットを活用した家庭学習の定着の取組、生活面では、携帯電話・スマートフォンやコンピュータ等の使い方について、家の人と約束したことを遵守することの重要性を育てるための取組を実施する。